のブリッジ余談（第 92 回）

## Death of 2NT

2017.3.17

２ＮＴという最終コントラクトが最適ということはまずありません、極めて中途半端なコントラクトです。ちょっとオーバートリックすれば、３ＮＴが出来てゲームルーズになりますし、ちょっと１ダウンすることもありますから、１ＮＴコントラクトがよかったということになりかねません。今や２ＮＴというビッドは、特に競り合いの中では、ナチュラルな意味に使われることがなくなって来ています。この状況をさして「２ＮＴの死（Death of 2NT）」と言ったりします。

実例で見てみましょう。

（２Ｓ）－Ｘ－（Ｐ）－？

となったときに次のハンドを持っているとしましょう：

a)
♠ 8
♥ 1087532
♦ 753
♣ 864

b)
♠ 85
♥ Q8753
♦ K75
♣ AJ4

a)も b)も３Ｈというのでしょうか？３Ｈが 0HCP もあれば 10HCP もあるのでは、ダブルした人はゲームに行ったものか、パートスコアのままにするのか判断に困ってしまいます。

また、

１ＮＴ－（２Ｈ）－？

となったときに：

c)
♠ 65
♥ 843
♦ QJ108654
♣ 7

d)
♠ KQ
♥ 97
♦ AQJ1096
♣ Q98

c)も d)も３Ｄとビッドするのでしょうか？ 3HCP のことも 13HCP のこともあるのでは、オープナーはとても正確な判断ができません。この問題を解決するために工夫されたのがレーベンソール（Lebensohl）（人名）コンベンションです。a)の場合も c)の場合も２ＮＴと言います。するとパートナーは自動的に３Ｃと言わなければいけないのです。３Ｃの後に a)では３Ｈ、c)では３Ｄと言うのです。これは弱いハンドだと言うことを示します。かわって b)、d)のような強いハンドではダイレクトに３Ｈあるいは３Ｄとビッドします。こうすることで強いか弱いかの区別がつけられるのです。

この考え方は競り合いの中ではほとんどのシーケンスで適用されるようになってきています。



例えば

１Ｄ－（１Ｓ）－Ｘ－（２Ｓ）
２ＮＴ－（Ｐ）－３Ｃ－（Ｐ）
Ｐ

は

１Ｄ－（１Ｓ）－Ｘ－（２Ｓ）
３Ｃ

とダイレクトにスートをビッドするのに比べて弱いハンドを示すもので good-bad ２ＮＴと呼ばれています。なおこの場合レスポンダーが強いときは、オープナーの２ＮＴに対して単に３Ｃとビッドするとパスされる可能性があるので別なビッドをする必要があります。

レスポンダーが自動的に３Ｃと言わないのは

♠ A3
♥ KQ109
♦ J76
♣ AQ98

を持っているようなとき、３Ｃというとそのまま終わってしまう危険があります。だからこのように強いハンドは何か別なことをビッドする必要があります。この例ですと３Ｓが適当でしょう。

次のようなケースも同じです。

１Ｄ－（Ｐ）－１Ｓ－（２Ｈ）
２ＮＴ－（Ｐ）－３Ｃ－（Ｐ）
３Ｄ

１Ｄ－（Ｐ）－１Ｓ－（２Ｈ）
３Ｄ

前者の方が弱く、後者の方が強いのです。